

鈴木 康子 教授

研究業績

2026年4月1日現在

著書・論文等の区分	著書・論文等の名称、発行所・発表雑誌・学会等の名称、共著の場合の編者・著者名、該当頁数	発行・発表年月
著書(単)	『近世日蘭貿易史の研究』、思文閣出版、1～462頁	2004. 1
著書(単)	『長崎奉行の研究』、思文閣出版、1～407頁	2007. 3
著書(単)	<i>Japan-Netherlands Trade 1600-1800: The Dutch East India Company and beyond</i> 、京都大学学術出版会、Trans Pacific Press、1～282頁	2012. 2
著書(単)	『長崎奉行—等身大の官僚群像—』、筑摩書房、1～233頁	2012. 4
著書(単)	『転換期の長崎と寛政改革』、ミネルヴァ書房、1～464頁	2023. 3
著書(共)	『鎖国日本と国際交流』(上) 箭内健次編、吉川弘文館(川添昭二、柳田利夫、宮崎賢太郎、高瀬弘一郎、五野井隆文、国重顕子、武野要子、森山恒雄、越中哲也、児玉太刀男、真栄平房昭、金井圓、三宅英利、石田千尋、上原兼善、加藤榮一、太田勝也、藤野保、木崎弘美、曹永和)、261～289頁	1988. 2
著書(共)	「日蘭貿易にみる古文書」『古文書の世界』関場武編、慶應義塾大学文学部(高橋智、川上新一郎、佐々木孝浩、緑川明憲、田代和生、原田博二、石川透)、87～110頁	2007. 9
著書(共)	“Changes in the Nagasaki Governorship System, 1680-1690”, Nagazumi Yoko (ed.), <i>Large and Board: The Dutch Impact on Early Modern Asia</i> , pp. 76-99, Tokyo, The Toyo Bunko	2010. 3
著書(共)	「天明前期の長崎情勢と長崎奉行の特質—戸田出雲守氏孟を中心として—」『日蘭関係史をよみとく』上巻、松方冬子編、臨川書店(福岡万里子、パトリツィア・カリオティ、松井洋子、シサベル・田中・ファンダーレン、益満まを、上野晶子、勝盛典子)、116～145頁	2015. 6
著書(共)	「近世後期オランダ人に対する抜荷禁止令とブルフ号事件—「安永四乙未歳御奉行桑原能登守様御書出之写」と「安永二癸巳年横文字願書并和解」を中心として—」『江戸幕府と長崎政事』清水紘一編、岩田書院、279～312頁	2019. 8
修士論文	「近世日蘭貿易史の研究—銅を中心として—」	1982. 3
博士論文	「近世日蘭貿易史の研究」(博士論文)、中央大学より博士(史学)号授与	2002. 3

論文(単)	「近世の樟腦貿易について—オランダ商館商業簿を中心として」『中央史学』第6号、中央史学会、35～65頁	1983. 3
論文(単)	「オランダ商館と初期の貿易商人—1620年～1660年の銅取扱い商人を中心に—」『日蘭学会誌』第19号、日蘭学会、1～24頁	1985. 10
論文(単)	「近世銅貿易の数量的考察—オランダ東インド会社の日本銅輸出—」『中央大学大学院研究年報』文学研究科篇 第15号、105～118頁	1986. 3
論文(単)	「18世紀初頭のオランダによる日本輸出商品の販路」『史学雑誌』第99篇12号、史学会、43～72頁	1990. 12
論文(単)	「寛延・宝暦期の長崎貿易改革—勘定奉行・長崎奉行兼職松浦河内守信正の施政」『日本歴史』532号、日本歴史学会、41～58頁	1992. 9
論文(単)	「モースの日本人観」『悠久』第52号、桜楓社、77～83頁	1993. 1
論文(単)	「近世中期長崎支配をめぐる—事件—用行組事件(宝暦3年)について—」『社会文化史学』第30号、社会文化史学会、73～86頁	1993. 2
論文(単)	「18世紀中期長崎と勘定所—松浦河内守信正を中心として—」『中央史学』第16号、中央史学会、43～64頁	1993. 3
論文(単)	「1720—30年代における日蘭貿易の諸問題」『東方学』第88篇、東方学会、1～16頁	1994. 7
論文(単)	「日蘭貿易の危機—1750年前後のオランダの動向—」『史学』第64巻第2号、三田史学会、47～69頁	1995. 3
論文(単)	「近世の小判貿易について」『花園史学』第16号、花園大学史学会、14～33頁	1995. 11
論文(単)	「江戸時代における日蘭間の貿易摩擦について」『村田学術財団年報』第10号、村田学術財団、139～142頁	1996. 12
論文(単)	「一八世紀後期の長崎貿易改革とオランダ」『日本史研究』第415号、日本史研究会、65～91頁	1997. 3
論文(単)	“Japanese Camphor Trade by the Dutch East India Company, 1620-1805”『花園大学文学部紀要』第29号、63～96頁	1997. 3
論文(単)	「宝暦・明和期の長崎貿易改革(上)—金銀問題・支配機構を中心として—」『花園大学文学部紀要』第30号、1～23頁	1998. 3
論文(単)	「宝暦明和期の長崎貿易改革(中)—運上金、石銭・地下役人を中心として—」『花園大学文学部紀要』第31号、21～38頁	1999. 3

論文(単)	「シーボルトの貿易論とその評価」『季刊日本思想史』第55号、ペリカン社、90～109頁	1999. 11
論文(単)	“Japanese Copper Trade by the Dutch East India Company, 1646-1805”『花園大学文学部紀要』第32号、185～215頁	2000. 3
論文(単)	「オランダ東インド会社と日本銀」『花園史学』第22号、花園大学史学会、31～66頁	2001. 11
論文(単)	「近世中期長崎支配機構について—長崎目付と享保の長崎奉行—」『長崎談叢』第91輯、長崎史談会、10～29頁	2003. 5
論文(単)	「享保の大飢饉と長崎—長崎奉行大森山城守の飢饉対策—」『崎陽』第2号、藤木文庫、1～19頁	2004. 5
論文(単)	「貞享・元禄期長崎奉行制度の変化—長崎奉行定員の推移と叙爵を中心として—」『花園大学文学部紀要』第37号、17～45頁	2005. 3
論文(単)	「長崎奉行萩原伯耆守美雅」『花園史学』第26号、花園大学史学会、32～57頁	2005. 11
論文(単)	「18世紀中期長崎奉行の諸相」『花園史学』第27号、花園大学史学会、30～49頁	2006. 11
論文(単)	「長崎奉行河野権右衛門通定の「言行録」」（史料紹介）、『花園史学』第30号、花園大学史学会、40～62頁	2009. 11
論文(単)	「長崎奉行河野権右衛門通定と寛文期の長崎」『花園大学文学部研究紀要』第42号、20～45頁	2010. 3
論文(単)	「近世長崎の外来動物 麝香鼠について」『九州史学』第160号、九州史学会、21～34頁	2011. 10
論文(単)	「天明後期の長崎情勢と長崎奉行末吉撰津守利隆」『花園史学』第35号、花園大学史学会、1～32頁	2014. 11
(史料紹介)(単)	「長崎御奉行交代控(一)」『花園史学』第36号、花園大学史学会、22～45頁	2015. 11
論文(単)	「工藤平助「報国以言」と一八世紀後期の長崎貿易政策」『花園大学文学部研究紀要』第48号、45～72頁	2016. 3
(史料紹介)(単)	「長崎御奉行交代控(二)」『花園史学』第37号、花園大学史学会、51～74頁	2016. 11
論文(単)	「長崎奉行中川飛騨守忠英について—寛政～文政期における知識人官僚の果たした役割—」『花園大学文学部研究紀要』第49号、53～82頁	2017. 3
論文(単)	「江戸時代の長崎と茶の湯」『淡交』第71巻 第11号、淡交社、13～23頁	2017. 11

論文(単)	「一七世紀長崎における茶の湯—『日葡辞書』と「茶湯秘書」を中心として—」『花園大学文学部研究紀要』第 51 号、102 頁～122 頁	2019. 3
論文(単)	「一八世紀後期—一九世紀初期の長崎と勘定所 —松山惣右衛門(伊予守)直義を中心として—」『長崎学』第 3 号、長崎市長崎学研究所、3～22 頁	2019. 3
論文(単)	「寛政改革と長崎—『宇下人言』・『翁草』の分析を踏まえて—」『花園史学』第 41 号、花園大学史学会、1～71 頁	2021. 2
論文(単)	「一九世紀初頭の不正唐物事件—「不正之唐物取扱候一件吟味仕候趣申上候書附」の分析を中心として—」『花園史学』第 46 号、花園大学史学会、1～59 頁	2025. 12
論文(単)	「一九世紀初頭幕府の抜荷政策」『花園大学文学部研究紀要』第 58 号、花園大学文学部、1～26 頁	2026. 3
その他の著書(単)	『ヤマネコ山にのぼる』(室田とをり)、文芸社、1～167 頁	2005. 2
その他の著書(単)	『山猫先生 オランダへゆく』、幻冬舎、1～241 頁	2016. 4
その他の著書(単)	『ソラ猫のそらごと』、海青社、1～121 頁	2024. 3
その他の著書(単)	『ソラ猫のまた旅』、海青社、1～123 頁	2026. 3
その他(単)	「オランダの時の流れに身をまかせ」『朝日ウィークリー』、朝日新聞社、5 頁	1992. 9
その他(単)	「1996 年大会にむけて」『日本史研究』第 410 号、日本史研究会、8～10 頁	1996. 10
その他(単)	「江戸時代の文化交流とライデン大学」『花園史学』第 18 号、花園大学史学会、62～64 頁	1997. 11
その他(単)	「新刊紹介 片桐一男著・校訂『阿蘭陀宿海老屋の研究』」日本史研究会『日本史研究』第 436 号、108～109 頁	1998. 12
その他(共)	「日本銅の生産と販売」『日蘭交流 400 年の歴史と展望』、日蘭学会、79 頁	2000. 4
その他(共)	"The Production and Export of Japanese Copper", <i>Bridging the Divide 400 Years The Netherlands-Japan</i> , Teleac/NOT, J. L. Blussé, W. Rimmelink, I. Smits (eds.), p. 62	2000. 4
その他(共)	"De Productie en Export van Japans Koper", <i>Bewogen Betrekkingen 400 jaar Nederland-Japan</i> , Teleac/NOT,	2000. 4

	J. L. Blussé, W. Rummelink, I. Smits (eds.), p. 62	
その他（単）	「長崎奉行 松浦河内守信正」『花園史学』第 21 号、花園大学史学会、51～54 頁	2001. 3
その他（単）	「書評 中村質著「近世対外交渉史論」」『歴史評論』第 618 号、127～130 頁	2001. 10
その他（単）	「新刊紹介 田代和生『倭館』」『中央史学』第 27 号、中央史学会、169～170 頁	2004. 3
その他（単）	「長崎奉行竹中采女正重義の醜聞」『花園史学』第 25 号、花園大学史学会、19～25 頁	2004. 11
その他（単）	「部会ニュース近世史部会 貞享～元禄期長崎奉行制度の変化」『日本史研究』第 516 号	2005. 8
その他（単）	「長崎奉行大森山城守時長」『花園史学』第 29 号、花園大学史学会、53～59 頁	2008. 11
その他（単）	「新刊紹介『日朝貿易と対馬藩』」『中央史学』第 32 号、中央史学会、124～127 頁	2009. 3
その他（単）	「書評 木村直樹著『幕藩制国家と東アジア世界』」『日本史研究』第 575 号、62～67 頁	2010. 7
その他（共）	「日蘭貿易の黄金時代」『平戸—海外に開かれた自由都市—』、平戸市教育委員会、30～35 頁	2011. 3
その他（単）	「日本史（日蘭関係史）の立場から」「フォーラム 日本・ヨーロッパ関係史の新たな展望」（椎名浩編）『西洋史学』第 250 号、47～48 頁	2013. 9
その他（単）	「魚屋のネコ」花園大学図書館司書資格課程編『アナログ司書の末裔伝』、8 頁	2013. 11
その他（単）	「奉行憎けりや、墓まで憎い」（随筆喫茶）『西日本新聞』	2014. 5
その他（単）	「新刊紹介 今井典子『近世日本の銅と大坂銅商人』」『日本史研究』第 645 号、日本史研究会、78 頁	2016. 5
その他（単）	「苦勞の多い長崎奉行」『建設コンサルタント協会会誌』、建設コンサルタント協会、30～33 頁	2016. 7
その他（単）	「江戸時代の長崎にネズミがやってきた」『花園史学』第 38 号、花園大学史学会、212～218 頁	2017. 11
その他（単）	「寛政四年に初輸入されたオランウータン」『花園史学』花園大学史学会、61～70 頁	2024. 2
受賞歴	徳川記念財団より、徳川賞を受賞（著書『転換期の長崎と寛政改革』）	2024. 11